

森林やまがた

No.199

2022.4

フォレスト
サポーターズ



美しい森林づくり推進国民運動

山形県森林協会は、「美しい森林づくり推進国民運動」を推進しています。



目次

令和4年度山形県森林・林業・木材産業施策の展開方向	2～3
令和3年度山形県再造林加速化研修会について	4
令和3年度林業事業体経営体質強化研修会を開催	5
やまがた絆の森協定を延長しました	6
国有林から 朝日山地森林生態系保護地域での保全活動	7
みどりのページ 「緑のふるさとづくりセミナー」を オンラインで開催	8
山形県緑の少年団活動発表大会 米沢市緑の少年団が最優秀賞！	9
空き瓶のリユースによる緑の募金	9
やまがた絆の森づくり活動(資金提供型)について	10
森の人 小松 保男さん・鈴木 富太郎さん	11
フォレスト通信 農林大学校林業経営学科から 卒業論文の取り組みについて	12
むらやま木育普及促進の取り組みについて	13

村山保安林制度に係るコンプライアンス研修会 ～制度の適正運用のために～	13
「木とふれあう環境づくり」の推進のため 令和3年度「木とのふれあいセミナー」開催	14
アウトドア用品を「木製化」にチェンジ	15
みんなの笑顔を一冊に込めて ～会えなくてもできる!?	15
緑の少年団交流研修会～	15
第60回全国林業経営推奨行事 庄内から2人同時受賞	16
やまがた木育×庄内 体験会の開催について	16
普及情報 森林研究研修センターが実施する 令和4年度の研修計画	17
やまがたの木造施設 山形市西山形コミュニティセンター	18
山形県の古木名木 庄内柿の原木(鶴岡市)	19
人事異動	20

(表紙写真：川西町玉庭の石割桜(オオヤマザクラ))

業・木材産業施策の展開方向

- ・林木育種の推進（優良品種・病虫害抵抗性品種等の生産、コンテナ苗の実証試験）
- ・一貫作業システムの推進（主伐後に連続して再生林を行う「一貫作業システム」による低密度植栽を実施する森林組合、林業事業者及び森林所有者等に対する支援）【新規】
- ・施業集約化の推進（森林を集約化し計画的に搬出間伐などの森林施業を実施する森林組合や林業事業者等を支援）

(3) 多面的機能の高い森林管理・保全プロジェクト

- ・森林経営管理制度の推進体制の強化（山形県森林管理推進協議会の開催、県、市町村及び林業関係団体等との情報共有、地域の林業経営者の体制強化や森林所有者等への普及啓発、「やまがた森林と緑の推進機構」による市町村の実践的な業務への技術的なサポート）【森林環境譲与税】
- ・森林の保全管理（保安林の指定、林地開発許可制度の適正運用）
- ・森林病虫害の防除（特別抜倒駆除、薬剤散布、樹幹注入等の実施）
- ・環境保全を重視した森林整備の推進（管理放棄され荒廃のおそれのある人工林や里山林の整備）【やまがた緑環境税】

(4) 災害等に強い治山対策推進プロジェクト

- ・治山事業（山地治山総合対策7箇所、水源地域等保安林整備3箇所、農山漁村地域整備交付金15箇所）
- ・県単独治山自然災害防止事業（山地災害危険地区の災害未然防止対策、山地災害地現地調査・応急工事）

3 「県産木材の加工流通の強化・付加価値向上」

(1) 県産木材の加工流通体制強化と付加価値向上プロジェクト

- ・木材産業等競争力の強化対策（木材の加工・流通に必要な施設の整備への助成）
- ・県産木材の普及促進（広葉樹等を天然乾燥するストックヤード整備等、構造用JAS製品の常時ストック体制の構築支援）【森林環境譲与税】

4 「県産木材の利用促進・特用林産の振興」

(1) 県産木材利用促進プロジェクト

- ・やまがたの木づかい運動の推進（しあわせウッド運動の一環として、認可保育所に県産木材を利用した積木の配布）
- ・やまがた木づかい運動の普及啓発（「山形県林業まつり」での県産木材をテーマとした展示、児童木工コンクール開催経費支援）
- ・木材関係情報の収集（県内の主要な木材市場における木材及び製材品の価格動向・市況等、現状分析に必要な情報を収集）
- ・県産木材の利用拡大（県産木材を使用した新築住宅及び民間施設支援）【拡充】一部【森林環境譲与税】
- ・林業、木材産業と工業、建築、大学・研究機関、金融機関等による「山形県林工連携コンソーシアム」の運営と新たな製品・技術の開発【森林環境譲与税】
- ・東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の選手村ビレッジプラザの建設に使用された県産木材を大会レガシーとして活用
- ・森林資源の循環利用の促進（間伐等に伴い発生する低質材をラミナ用材やペレット等のバイオマス燃料として利用するための搬出補助、ナラ林の健全化のための路網整備・害虫駆除・被害木のチップ等活用への補助）【やまがた緑環境税】

(2) 特用林産物振興プロジェクト

- ・やまがた山菜・きのこ日本一産地化プロジェクトの推進（ブランド化戦略に基づく生産戦略や流通・コミュニケーション戦略、観光・交流戦略の各施策の実施）

5 「その他」

- ・試験研究費（森林環境の維持・管理技術の確立、きのこ・山菜等の優良品種開発、森林病虫害の防除技術開発等）
- ・森林組合振興総合資金（森林の保続培養及び生産力の増進を図るとともに森林組合等の健全な育成発展に資することを目的とした事業資金の貸付）
- ・木材産業等高度化推進対策事業資金（木材生産の合理化の促進並びに林業経営の安定化を図ることを目的に、造林・育林、素材生産、製材、木材卸売等の事業を行う事業者等への融資）
- ・林業改善資金（林業者及び木材産業事業者が先進的な取り組みを行うために必要とする事業資金の無利子貸付）

《基本的な考え方》

本県の森林・林業等の現状や国の林業の成長産業化等の取組みを踏まえ、平成28年12月に制定された「山形県の豊かな森林資源を活用した地域活性化条例」（通称：やまがた森林ノミクス推進条例）に即し、第4次農林水産業元気創造戦略（R3～R6）の目標達成を目指して、「やまがた森林ノミクス加速化ビジョン～第3次山形県森林整備長期計画～」(R3.3策定)に沿って、各施策を着実に実施する。

《施策の展開方向と重点的な取組み》

やまがた森林ノミクスを加速化させるため、

1「人材育成・地域づくり」、2「県産木材の安定供給・多面的機能の発揮」、
3「県産木材の加工流通の強化・付加価値向上」、4「県産木材の利用促進・特用林産の振興」
の4つを柱として、各種施策を体系的に展開していく。

1 「人材育成・地域づくり」

(1) 林業を支える人材育成と事業体強化プロジェクト

- ・林業労働力環境改善強化対策(労確法による改善計画の実行支援と施業合理化の推進、労働災害防止対策)
- ・緑の青年就業準備給付金の県立農林大学校林業経営学科の学生への給付
- ・地域林政アドバイザー育成支援【森林環境譲与税】
- ・意欲的林業者活動支援(林業技術向上研修)
- ・山形県青年林業士、指導林業士の認定
- ・林業普及指導(試験研究成果の速やかな現地への普及・指導)

(2) 魅力ある地域づくり促進と参加意識醸成プロジェクト

- ・やまがた森林ノミクスの推進(県民ミーティングの開催、林業遺産認定に向けた調査の支援、PRグッズの作成、やまがた森林ノミクス県民会議の運営)
- ・新たな森林資源等の把握と森林サービス産業創出に向けた検討【新規】【森林環境譲与税】
- ・県内4つの県民の森(県民の森・眺海の森・源流の森・遊学の森)の指定管理者による管理運営〔各総合支庁〕
- ・市町村や地域住民、NPO等の独自性と創意工夫を凝らして取り組む森づくり活動等を支援〔みどり自然課〕【やまがた緑環境税】

2 「県産木材の安定供給・多面的機能の発揮」

(1) 県産木材の安定供給推進プロジェクト

- ・意欲と能力のある林業経営体による路網整備と搬出間伐を推進し、川下との連携を強化
- ・高性能林業機械のトライアル(レンタル経費)支援等【森林環境譲与税】
- ・最新のリモートセンシング技術等を活用したスマート林業の推進(森林クラウド情報集積、リモートセンシング技術実証、レーザ計測等による森林資源・境界情報のデジタル化)一部【森林環境譲与税】
- ・山形県県営林経営計画に基づく県営林の経営・維持管理、SGEC森林管理認証書に基づく森林モニタリング調査の実施
- ・生産性向上計画に基づく搬出間伐への支援と高性能林業機械のヘッド更新に対する支援【新規】
- ・県と国、市町村が共同で財源を負担し、県が航空レーザ測量を一括発注し、高精度な地況・林況情報(デジタルデータ)を取得【新規】
- ・先端技術の実践化(最上地域に集約化モデル団地を設定し、関係者による協議会を設置するとともに、現地検討会を開催)【新規】
- ・民有林林道の整備(木材生産基盤となる林道開設8路線、林道改良1路線、点検診断等)
- ・森林施業の支援(森林施業を実施する森林組合や林業事業者等の支援)
- ・森林整備地域活動の支援(森林施業の集約化、森林経営計画の作成、森林境界の確認等)

(2) 主伐・再造林推進プロジェクト

- ・再造林支援制度の推進(再造林経費への支援)【やまがた緑環境税】
- ・再造林の加速化(主伐・再造林加速化対策会議の開催、事業者間連携のための研修会開催)【森林環境譲与税】
- ・特定母樹等のコンテナ苗木の生産技術の向上、県内由来の耐雪性を有する特定母樹の選抜育成、ミニチュア採種園造成による特定母樹等の種子増産【拡充】

令和3年度山形県再造林加速化研修会in山形

◆はじめに

県では、県産木材の需要増加が見込まれる中、利用期を迎えた人工林の主伐を進めるとともに、森林の公益的機能を維持し、資源の循環利用を確保するため、伐採跡地への確実な再造林を推進しています。

令和2年度の再造林率は102%となりましたが、今後は、令和6年度の再造林面積200haを目指し、伐採事業者と造林事業者の連携・協力により、伐採前の段階で森林所有者に再造林を働きかける取組みを促進する必要があります。



研修会場の様子

このため、伐採及び造林事業者が情報共有を図るとともに、森林所有者の再造林への意欲向上や主伐・再造林の一体的かつ計画的な実行などに連携して取り組んでいけるよう、令和4年3月7日に山形県再造林推進機構が主催する「令和3年度山形県再造林加速化対策研修会」が開催されました。

なお、当日は、新型コロナウイルス感染症クラスター抑制重点対策期間中であつたことから、会場での感染拡大を避けるためWEB参加も可能とし、会場参加は31名、WEBでは30回線が研修会場と繋がり、研修が進められました。

◆開催概要

研修会は、山形県再造林推進機構の佐藤会長のあいさつに続き、国立研究開発法人森林研究・整備機構東北森林整備センター山形水源林事務所、県内の2森林組合、県森林ノミクス推進課の講師による講義、参加者との質疑応答が行われました。

①「山形水源林整備事務所における育成複層林事業の取組みと課題に



講義の様子

ついて」として、山形水源林事務所青木勇所長から、数十haのまとまりのある林地で、概ね2ha以下の伐区をモザイク状に設定し、伐倒、機械地拵え(一部)、コンテナ苗植栽までの一貫作業で実施した事例について説明がありました。

②「西村山地方森林組合における皆伐再造林の実践」では、西村山地方森林組合森林整備課荒木仁志課長と長岡和弥主任から、令和3年度に実施した皆伐・再造林の一貫作業の実施状況や工夫点などについて説明がありました。

③「豊かな資源を活かし育てる森林づくり」では、温海町森林組合忠鉢春香主任から、サステイナブル(持続可能)な森林の循環利用を目指し、

伝統野菜「あつみかぶ」の焼き畑栽培を、伐採・再造林に取り入れた施策について説明がありました。

④「市町村森林整備計画」特に効率的な施策が可能な区域」の設定について」では、森林ノミクス推進課石川直幸主査が、令和3年6月の全国森林計画の変更に伴い、市町村森林整備計画で設定される「特に効率的な施策が可能な区域」の設定の考え方、設定に伴うメリットやデメリットについて説明しました。

◆おわりに

今回の研修会では、再造林コストの縮減に向け、集材・地拵え一貫作業システムやコンテナ苗植栽など新しい造林技術の実践例を基に、新技術に対する考え方や手順・工夫した点などの紹介がありました。また、「今後の主伐・再造林を行う上で指標の一つとなる『特に効率的な施策が可能な区域』の理解を深めました。

県では、引き続き、山形県再造林推進機構と連携・協力しながら、主伐・再造林の計画的な実施に向けて、伐採及び造林事業の協力体制の強化を図ってまいります。

〔県森林ノミクス推進課〕

令和3年度林業事業体経営体質強化研修会を開催

◆はじめに

令和3年度林業事業体経営体質強化研修会が令和4年3月10日に開催されました。研修会には林業事業体から26名、県・関係団体等から23名の参加がありました。また、できるだけ多くの関係者に研修会の内容について学んでいただきたいという趣旨から、講演後4月10日までYouTubeにてオンライン配信されました。

◆目的

平成31年4月に始まった森林経営管理制度において、制度の実行の担い手となる意欲と能力のある林業経営者の経営力強化を図る必要があります。その一方で、多くの事業体が抱える課題として、労働生産性の向上や、慢性的な人材不足による業務の多忙化等があり、制度を円滑に実施するうえでの足かせになっています。そこで今回、林業事業体の経営を支援するという立場でこれまで様々な事業体の経営改善支援や人材育成カリキュラムの作成及び運営を手がけてきたフォレスト・メディア・ワークス株式会社の榎崎達也氏からオ

ンライン形式で「林業事業体の「組織経営」を考える」林業で働く人の幸せは組織経営から」と題して講演をいただきました。

◆内容

講師の榎崎氏は、主に東海地方、関西地方において林業事業体の経営支援をおこなってきた実務経験に基づき、様々な事例を挙げながら林業事業体の組織経営についてお話しをいただきました。

○「林業経営」ではなく「組織経営」を学びましょう

榎崎氏は、林業事業体の抱える課題について考える時、林業経営ではなく事業体の組織経営を学ぶ必要が



講師：榎崎 達也 氏



Webによる研修会

あることを強調されました。組織経営とは言い換えれば組織マネジメントのことであり、

- 1 組織を維持・発展させる基本
 - 2 経営者の考え方、役割
 - 3 組織構築の基礎
 - 4 人材育成
 - 5 自社組織内の課題への取り組みについて、事例を交えながら詳しく話をされました。
- 自社に必要な良い人材は自社で育てるしかない！育て方を学びましょう！

林業事業体が直面する重要な課題である人材確保・人材育成についても、様々な角度から話されました。「みなさんは、どうして林業という

職業を選んだのですか？」という問いから始まります。「林業に従事している人は、林業が好きで働いている。林業事業体を離職した人の再就職先を調べた岐阜県の調査でも、再び林業で働いている人がほとんどである。それでも林業事業体を辞める人が後を絶たないことについて、「やりがい」と「職場の人間関係」の面から自らの経験を含めて具体的に話されました。「やりがい」と「職場の人間関係」が人材育成の要であり、組織マネジメントの基本はルールづくりであると話を結びました。

◆終わりに

現場の実情を的確に捉えた内容を非常にわかりやすく説明していただきました。参加者からのアンケートでは、研修内容についてよく理解できた、という回答が多くありました。また、「話を聞いてて、なるほどと思うことばかりでした。」という記述もあり、榎崎さんのお話に共感された方も多かったと思われる。今回の話の続きの問題となる人事評価制度、人材育成の具体的な事例を話してほしいという要望も多くあり、今後の林業事業体研修会の参考といたします。

〔県森林ノミクス推進課〕

やまがた絆の森協定を延長しました

◆はじめに

県では、企業等、森林所有者及び県の3者で協定を結び、森づくり活動を通して里山地域の活性化を図る「やまがた絆の森」を進めています。令和3年度で協定満了を迎えた9企業等から、令和4年度以降も協定を延長し、活動を続けていただくこととなりましたのでご紹介します。

◆やまぎん蔵王国定公園の森

参画企業 (株)山形銀行

活動地 山形市・上市市 他

協定期間 令和13年3月31日まで

(公財)やまがた森林と緑の推進機構の造林地の間伐の資金を提供し、森林整備を促進します。



◆神の宿る森はぐる

参画企業 (一財)田川建設会館

活動地 鶴岡市羽黒町手向

協定期間 令和8年3月31日まで

スギ林の下刈りや枝払いを行い、地元建材の育成・環境保全活動を地域とともに進めます。

◆にしかわ絆の森

参画企業 日東ベスト(株)

活動地 西川町大字沼山

協定期間 令和9年3月31日まで



広葉樹の植栽と保育作業を地域と協働で行い、きれいな水を貯える豊かな森づくりを行います。

◆パレスクランデール絆の森

参画企業 (株)ジョイン

活動地 山形市大字松原

協定期間 令和5年3月31日まで

ご結婚されたカップルが記念植樹したサクラの保育を行い、ご家庭の成長とともに緑を育みます。



◆天童・不思議の森

参画企業 (株)滝の湯ホテル

活動地 (株)デンソーFA山形

協定期間 (株)天童木工

活動地 (株)新東京ジオ・システム

天童市内の4企業が力を合わせ、スギ林の下刈りや広葉樹の植栽、保育により豊かな森を育てます。



◆R48しあわせ街道学びの森

参画企業 (有)双伸工業

活動地 東根市大字関山

協定期間 令和9年3月31日まで

ブナ等の広葉樹の植栽と保育を継続し、地域とともに環境保全林の造成に取り組めます。



◆ハイブリッド基金の山形トヨペットの森

参画企業 山形トヨペット(株)

活動地 山形市みはらしの丘

協定期間 令和9年3月31日まで

地域に愛される「ハイブリッド基金の山形トヨペット桜街道」造成を目標に、サクラの保育を進めます。



◆ニッサンの森 [Asahi]

参画企業 山形日産自動車(株)

活動地 日産プリンス山形販売(株)

協定期間 朝日町大字白倉

協定期間 令和9年3月31日まで

広葉樹の保育作業やきのこの植菌など森林内での体験活動を、社員・家族・地域とともに行います。



◆あいおいニッセイ

参画企業 同和損保の森 [西川睦合]

活動地 あいおいニッセイ

協定期間 同和損害保険(株)

活動地 西川町大字睦合 他

協定期間 令和7年3月31日まで

(公財)やまがた森林と緑の推進機構の造林地の間伐の資金を提供し、森林整備を促進します。



あいおいニッセイ同和損保

◆おわりに

令和4年度から、県内37企業等が35地区で森づくり活動を進めます。今後も森づくりの輪がより一層広がろう、取組みを進めてまいります。

〔県みどり自然課〕



緑の募金

春の募金期間
4月1日～5月31日

皆様からのご好意により寄せられた「緑の募金」は、身近な環境の緑化から、森林の整備、緑の普及啓発活動、森林環境学習など、さまざまな緑化活動に役立てられています。

ふるさとの緑の推進に、私たちは取り組んでいます。

公益財団法人 **やまがた森林と緑の推進機構**

理事長 今井 敏

〒990-2363 山形市大字長谷堂字馬場2265
TEL 023-688-6633 FAX 023-688-6634

ご協力を
お願いします





朝日山地森林生態系 保護地域での保全活動

●森林生態系保全センターとは

全国の国有林には、31箇所（面積約701千ha）の森林生態系保護地域が設定されています。その内のひとつが、山形県と新潟県に跨がる朝日山地森林生態系保護地域で、面積は約70千ha（うち、東北森林管理局管轄面積約48千ha）です。

当センターでは、この広大な保護地域の保全管理を主体とし、森林環境教育や庄内海岸林の森林整備活動の支援等を行っています。

●朝日山地の特徴



以東岳から朝日主縦走路

朝日山地は、低地のブナから高地のハイマツまで日本海側多雪山地の植生分布が広がる多様な森林であることから、

域」に設定されました。

主峰大朝日岳（標高1870m）を筆頭に、小朝日岳（標高1647m）、西朝日岳（1814m）、寒河江山（標高1695m）、以東岳（標高1772m）などの山々が連峰となっております。

●主な取組事項

- ・森林生態系保護地域の保全管理
- ・自然環境の維持、動植物の保護、遺伝子資源の保存等を図るため、関係団体と連携して、保全管理活動を行っています。動植物の採取や樹木の損傷、既設歩道外の利用等生態系に



マナーガイド配布

平成15年3月に「朝日山地森林生態系保護地

影響を与える行為のパトロールや登山者へのマナー啓発を行っています。

・森林病虫害の監視防除
朝日山地では、平成23年9月から大朝日岳から延びる稜線上で、マツ



マツノクロホシハバチ幼虫

ノクロホシハバチによるハイマツの食害被害が目立ち始めました。過去には北海道でキタゴヨウに大規模な枯死被害が発生したこともあるため、経過を見守りつつ必要な捕殺を行っています。

令和3年度は9月21日～22日にかけて、大朝日岳周辺においてセンター職員が食害調査を行い、4箇所（約90匹）の被害を確認し駆除しました。引き続きマツノクロホシハバチによるハイマツの食害被害の監視防除を継続していきます。

・外来植物の駆除

オオハンゴンソウは非常に繁殖力が強いので、在来の植物などを押しつぶすのけ一面に広がることが懸念されま



オオハンゴンソウ除去作業

す。また、地域固有の生態系にとって問題になってきています。近年、朝日山地にもその姿が見られるようになりまし

令和3年度は5月23日に山形署29林班において、巡視員（山形県山岳連盟、小国の自然を守る会、山形県溪流釣り協議会）、環境省、山形県及びセンター職員10名でオオハンゴンソウ駆除作業を実施しました。雨の中、約2時間の作業で約500株を駆除しました。

朝日庄内森林生態系保全センターでは引き続き朝日山地の生態系を守る活動を継続していきますので、ご協力よろしくお願



みどりのページ

「緑のふるさとづくりセミナー」をオンラインで開催

◆はじめに

市民活動による緑化の推進や森林環境の保全について広く普及啓発するとともに、関連する助成事業について周知を図るため、緑の環境づくり推進事業研修会「緑のふるさとづくりセミナー」を開催しました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、当初の予定を変更して、YouTubeでのライブ配信としました。

1 期日

令和4年3月3日(木)

2 場所

山形県生涯学習センター 遊学館

3 主催

(公財) やまがた森林と

緑の推進機構

4 後援

山形県、山形新聞・山形放送、(一社)やまがた樹木医会、山形県森林インストラクター会、美しい山形・最上川フォーラム 視聴回数 のべ9回

6 内容

第一部 講演

演題 地域外人材とともに探る

中山間地域の豊かな可能性

講師 山形大学農学部准教授

渡辺 理絵 氏

第二部 緑のふるさとづくり事例紹介

第三部 助成事業ガイダンス

◆渡辺理絵氏の講演

渡辺先生のご専門は、人文地理学・地域づくり論で、人口減少時代の中 山間地域における集落の持続性に関する研究をされています。山形県の面積の大半を占める中山間地域は、豊かな森林や緑に恵まれながら、人口減少を背景にさまざまな課題に直面しています。地域の持続可能性を高めるためにどうしたらよいか、地域外の人材との交流や連携という観点から、ご講演をいただきました。

講演の中では、注目される地域外人材として、主に関係人口についてご紹介いただきました。「関係人口」とは、観光等で地域を訪れる「交流人口」と、UターンやIターン等で地域に移住してくる「定住人口」との間に位置づけられ、地域との多様な関わりにより地域づくりの担い手となることが期待されています。その関係人口との交流・連携により、

地域が抱える諸課題をいかに乗り切るか、具体的な事例を踏まえて、わかりやすくお話いただきました。

また、注目される取組みとして、企業がCSR(企業の社会的責任)やCSV(共通価値の創造)の観点から、中山間地域との関わりをはじめている事例もご紹介いただきました。



渡辺理絵氏の講演

◆緑のふるさとづくり事例紹介

助成事業を活用した2つの取組みについて紹介しました。

「緑の環境づくり推進事業」からは、「さがみの里」竹遊会(山辺町)の取組みについて、会長の鈴木和夫氏より発表していただきました。本事業は、地域住民の皆さんが取組み緑化ボランティア活動を支援するものです。同会では、地区内の竹林が

手入れされずに荒廃し、土砂災害の懸念や、獣害の発生などの問題を抱えていたことから、有志を募り竹林の管理に取組んでいます。発生した竹材を使って門松や「竹灯り」を製作するなど、竹林の手入れだけでなくまらない地域づくりの活動に広がっており、今後の発展も期待されます。

「郷土の名木・古木等保全事業」からは、寒河江市指定天然記念物「越井坂のアカマツ」について、担当樹木医の松沢春伸氏より発表していただきました。本事業は、天然記念物樹木の保全を支援するもので、県内の樹木医に診断・指導を依頼して実施しています。このアカマツは、平成31年度事業の対象木で、雪害による幹折れが発生し、樹勢も低下しました。幹折れの要因や、実施した土壌改良等の処置、その後の状況などをわかりやすく解説していただきました。

◆助成事業ガイダンス

令和4年度の助成事業の募集概要について、担当者が説明しました。

◆おわりに

当機構では、今後も、緑豊かなふるさとづくりを推進していくため、様々な支援や普及啓発に取組んでいきます。

山形県緑の少年団活動発表大会 米沢市緑の少年団が最優秀賞!

山形県緑の少年団連盟が主催する第33回山形県緑の少年団活動発表大会で、置賜ブロック代表の米沢市緑の少年団(米沢市立三沢西部小学校)が最優秀賞を受賞しました。



記念植樹活動

米沢市緑の少年団は、米沢市立三沢西部小学校の2、6年生が所属する学校単位団です。学習活動として、地域内にあるブナの原生林での幹周測定や、林業遺産に認定された草木塔群と木流しの留場跡の見学、木質バイオマス発電所、民俗資料館での林業に関する文化財の見学、田沢コミュニティセンターとの里芋学習、おきたま森のホームキャンプで育てた

苗木の一部を記念植樹するなどの森林環境学習を行っています。

特に、草木塔や田沢地区の環境保全の歴史についての学習を通じて、SDGsの探求学習に力を入れて取り組んでいます。今年度は4回にわたり団員全員で森で見つけた疑問や発見を発表し合うなどの学習を行いました。



草木塔見学会

なお、優秀賞は、富本小学校緑の少年団(村山市)、遊佐町緑の少年団(遊佐町)、金山小学校みどりの少年団(金山町)が受賞しました。最優秀賞を受賞した米沢市緑の少年団は、10月に大分県で開催される全国緑の少年団活動発表大会(全国育樹祭併催行事)に推薦される予定です。

空き瓶のリユースによる緑の募金への取組みを始めました



リユースされるジャムの空き瓶

「えんjam」さんは、山辺町で自家栽培の採れたて果物や県内産の旬の果物、愛媛や熊本農家の直送された旬の素材などを使用して、ジャムの製造を行っています。

この度、えんjamさんはジャムの空き瓶のリユースによって節約できた費用を緑の募金に寄付していただく取組みを開始しました。

この取組みにより、様々な緑化活動に役立てられる緑の募金額の増加につながるとともに、資源の有効活用によって環境保全が図られることも期待されます。

「緑の募金」にご協力いただいた企業・団体のみなさま

(R4. 2. 1~R4. 3. 31) (やまがた森林と緑の推進機構取扱い分)

青山建設グループ 緑の募金の輪を広げる会、株式会社伊藤造園 土木、M木工、小国町森林組合、金山町森林組合、北庄内森林組合、手ノ子区協議会、手ノ子区協議会さんさん部会、東北ナノテック(株)、西村山地方森林組合、東根市森林組合、最上広域森林組合、米沢地方森林組合 (敬称略、五十音順)

ご協力ありがとうございました

えんjamさんは店舗を設けず、イベントやフリーマーケットなどに出版していますので、ブースを見かけた方は是非お立ち寄りください。また、えんjamさんのように売上げの一部などを緑の募金に寄付して下さる企業や団体を随時募集していますので、お気軽にお問い合わせください。

(「公財」やまがた森林と緑の推進機構)

やまがた絆の森づくり活動(資金提供型)について

◆はじめに

やまがた森林と緑の推進機構では、平成22年から県と企業、当機構が協定を結び、森づくり活動による環境貢献と地域交流による里山地域の活性化を図る、「やまがた絆の森づくり」事業に取り組んでいます。

その中でも、当機構で令和3年度に実施した「資金提供型」の取り組みをご紹介します。

◆企業の資金提供による森林整備

「資金提供型」とは、協定を締結した企業から事業費の一部をご負担いただき、当機構が管理する林地において、間伐等の森林整備を行うものです。間伐で生産した木材は、県内の製材・集成材工場、木質バイオマス発電所に供給しており、間伐の際には、高木性の広葉樹を保存するなど、生物多様性にも配慮した施策を行っています。

また、間伐等の成果について山形県が認証するCO₂吸収量認証により見える化が図られることにより、企業のSDGsへの貢献にお役立ていただけます。

◆今年度事業の取組み

令和3年度は、新たに庄内地域で、(株)渡会電気土木、(株)エルデックの2社との協定を締結し、助成いただいたおかげで、より多くの林地で間伐事業を行うことができました。

事業内容は、全体で搬出間伐49ha、森林作業道の整備6,300mを実施しており、3,800mの間伐材の生産を行いました。(各協定先の実施内容は下表の通り)

また、昨今のウッドショックによる木材需要の増大が、製材会社及び木質バイオマス発電施設にも影響を与えているなかで、今年度は事業委託先のご協力を得ながら、昨年度のha当たりの素材生産量55m³に対し、62m³と素材生産量を増やし、供給しております。



PELLET WATARAI エネルギーの森 協定式



令和3年度事業実施完了箇所 エルデックの森

◆おわりに

昨年度末には、(株)山形銀行とあいおいニッセイ同和損害保険(株)との協定期間の延長をさせていただきますことができました。誠にありがとうございました。

この「やまがた絆の森づくり」事業は、CO₂森林吸収量の「見える化」による企業の環境貢献やSDGsの取組みに寄与するだけでなく、分収林の経営改善にも有効なことから、当機構としましては、これからも事業の更なる普及に努め、県が提唱する「2050カーボンニュートラル」の実現に向けて取り組んで参りたいと考えております。
(「公財」やまがた森林と緑の推進機構)

やまがた絆の森づくり事業「資金提供型」一覧

名称	やまぎん蔵王国定公園の森	ニッサンの森【朝日白倉】	あいおいニッセイ同和損保の森【西川陸合】	PELLET WATARAI エネルギーの森	エルデックの森
協定先	(株)山形銀行	山形日産自動車(株) 日産プリンス山形販売(株)	あいおいニッセイ同和損害保険(株)	(株)渡会電気土木	(株)エルデック
場所	県内13市町村の分収林地 4,453.81ha	朝日町内、Asahi自然観周辺の分収林地 75.48ha	西川町内の分収林地 53.8ha	鶴岡市内の分収林地 173.86ha	酒田市、庄内町内の分収林地 247.13ha
令和3年度実績	間伐：5.93ha 作業道：1,105m 材積：368m ³	間伐：5.03ha 作業道：815m 材積：278m ³	間伐：11.91ha 作業道：1,307m 材積：778m ³	間伐：8.7ha 作業道：890m 材積：962m ³	間伐：17.37ha 作業道：2,167m 材積：1,611m ³

森の人紹介

多彩なスキルで地域活性化

小松 保 男さん



川西町の玉庭地区で、原木きのこ生産を中心に様々な活動を行っている

る、小松保男さんを紹介します。

小松さんは、東日本大震災をきっかけに、福島県から川西町玉庭地区に移住してきました。福島県では陶芸家として活躍していましたが、移住してからは原木きのこ生産に取り組んでいます。

きのこ生産は、しいたけを中心になめこ、まいたけ、ひらたけを原木栽培しています。まいたけ栽培にあたっては、大量の原木を殺菌するため、釜の自作までしています。また、当初は原木が思うように確保できなかったため、自ら伐採し原木の生産も行うようになりました。

山に入るようになると、森林の荒廃が目につくようになってきました。

特に、松枯れの枯損木が地区内の県道沿いに大量にあり、景観の悪化だけでなく道路への倒木も危惧される状況でした。これを何とかしなければということで、平成26年に地区の有志で玉庭地区交流センター四方山館内に「玉庭森組」を結成し、森林・山村多面的機能発揮対策交付金の支援を受けて活動しています。

活動は、主に下刈りや枯損木の伐倒を行っており、地区の方々からは「こんなに良くなるのか」と高い評価を受けているそうです。伐採した枯損木は集材もしており、バイオマスでの出荷を検討しています。

小松さんの目標は、玉庭地区への移住者を増やすことで、そのために必要な地区内の雇用創出などに取り組んでいます。きのこ栽培や森林整備もその一部であり、発電事業までも構想にあるようです。

小松さんは他にも、バイクのオフロードコースの運営やシステム開発など多くの取り組みを行っており、それぞれ様々な困難があるかと思うのですが、小松さんはそれも楽しんでるように見えます。

今後も多彩なスキルとバイタリティーで、玉庭地区の活性化に貢献されることが期待されます。

〔置賜総合支庁森林整備課〕

森の人紹介

山形県指導林業士

大江町光林会 会長

鈴木 富太郎さん（大江町）



山形県指導林業士（大江町光林会会長）の鈴木富太郎さん

紹介します。

鈴木さんは、学生時代を東京で過ごしましたが、20代半ばに大江町沢口地区にある実家へ戻り、早い時期から地元の農林業への関わりを持ってきたそうです。

当時の私生活のお手本は、近所のお母さん達であり、自然に負荷が掛からない自給自足の生活の知恵を沢山教えてくれたと話してくれました。また、昭和53年頃から木材価格が低迷し、「西山杉」を如何にして売り出していくかという思いから、「光林会」（山に光を当てて良くするとの意味）を設立したとのこと。

設立当初は、優良材を仕立てることを目的に、「下刈り」、「枝打ち」、「除

伐」といった育林の基本技術を磨くことに取り組んできました。

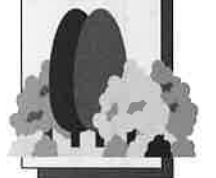
現在は、大型の林業機械を持たない小規模な自伐林家では、収益を確保しながら木材の生産活動を行うことが難しい状況です。このため、地域でまとまりのある出材量を確保し、搬出できないか模索中とのこと。 「林道沢口道海線」の開設工事を契機に、地元の先輩方が手入れしてきた沢口共有林を活用していうと、令和3年度に森林総合監理士（フォレストスター）や森林施業プランナーから助言をもらいました。

令和4年度は、地域の皆で森林資源量を把握し、林道・作業道の計画や木材価格の推移などを勉強し、森林所有者の手元にお金が残るよう、最新の知識と技術の習得に努めたいとのこと。

今後は、沢口共有林を再造林地と針広混交林へ誘導する林地に分け、一部をキャンピング地として活用し、間伐材を薪ストーブの燃料にするなど、若い時の里山利用に立ち返り、SDGsに繋がる新たな山林活用も考えていきたいと、熱心に話してくれました。

〔村山総合支庁森林整備課〕

「卒業論文の取り組みについて」



◇6期生15人全員が2学年に進級し、就職活動、卒論調査、資格取得とますます忙しくなってきました。今回、彼らが取り組む卒業論文のテーマと内容について紹介します。

○卒業論文について

「自家所有林における長伐期林の施業方法に関する研究」

大径木については、需要の低迷及び価格の低下が見られる。自家の所有林については標準伐期齢以上の森林の割合が高いことから、有利な森林経営に向けた高齢級森林の管理方法について検討する。

「チェーンソー操作技術の指導方法の検討―伐木基礎技術の習得について―」

チェーンソーの操作技術の指導方法、特に正確な受け口と追い口の作成指導方法について検討を行い、初心者との参考となるようなマニュアルを作成する。

「ワラビのカバークロップによる下刈り低減効果の検証」

ワラビのスギ造林地への植栽によ

る下刈り経費の軽減効果を実証する。

今年度は、前年度に植栽したワラビ苗の育成技術の実証及び既存の植栽地からワラビの適地の検討を行う。

「燻製チップの製造に関する検討」

実習林の樹木を用いた燻製チップの製造を試みるとともに、燻製チップに適した樹種についての検討、森林管理の検討を行う。

「カラマツ苗木の徒長防止方法の検討」

カラマツの苗木の徒長防止のため、根切り回数、施肥方法、苗床での苗木の間隔の点から検討を行う。

「フォワード作業の生産性向上についての検討」

フォワードの生産性向上を検討するため、フォワードの規格及び構造、現場条件及び走行距離等について、施工現場で調査及び検証を行う。

「チェーンソー操作技術の指導方法の検討―伐木競技技術の活用について―」

林業技術及び安全意識向上のための伐木競技について、技術の現場へのフィードバックを行い、併せてチ

ェーンソーの使用経験のある学生や一般の林業従事者を対象にステップアップを狙ったマニュアルを作成する。

「ヤナギ類の木質バイオマス利用の検討」

成長の早いヤナギ類の自生地の環境や植栽後の成長量等を調査し、発電や熱源を供給するバイオマス資源としての有効性を検証する。

「林床にチマキザサが優占する才治沼実習林広葉樹二次林における人為的補助作業による更新技術」

コナラを主とした広葉樹二次林において、実生更新、植栽による更新、萌芽更新の可能性を調査し、林況に応じた更新方法の選択モデルを検討する。

「やまがた絆の森づくり」による庄内海岸砂防林の整備に関する検討」

庄内海岸砂防林の「やまがた絆の森」について調査を行い、海岸砂防林の整備方法やボランティアによる森林整備の効果について検証を行う。

「製炭による才治沼実習林広葉樹の活用の検討」

実習林にて炭窯を製作し、木炭の生産を行うとともに、広葉樹林の管理方法について検討する。

「地元中学生を対象とした林業への

理解促進に関する検討」

中学生を対象に、林業の就業促進と、森林・林業への理解促進に関する方法について検討する。

「ICTを活用した森林整備における面積測量の方法に関する検討」

森林整備における測量作業の効率化を目的にドローン等による面積測量の方法について検討する。

「レーザー計測技術を用いた作業道設計の効率化に関する検討」

地上レーザー計測技術を用いて、路線選定作業の効率化を検証する。

「広葉樹の製材用材の活用に関する考察―製材方法についての検討―」

才治沼実習林広葉樹の伐採・製材を行い、製材用材としての活用の検討を行う。また、カシナガ被害材の活用方法についても検討していく。

◇卒業論文では県の関係機関及び林業事業体の皆様からのご協力が必要となります。ぜひともご支援を賜りますようお願いいたします。

また、4月に7期生として12人が入学しました。令和4年度も引き続き、27人が林業、木材産業の立派な担い手となれるよう、あたたかく見守っていただければと思います。

〔山形県立農林大学校〕

むらやま木育普及 促進の取組みについて

◆はじめに

村山総合支庁では、有識者からなるむらやま木育普及促進協議会を年2回開催し、実施内容の評価・検証を行っています。令和4年3月10日（木）に開催した令和3年度2回目の協議会の結果を受けて、実績と今後の計画についてまとめたので報告します。

◆令和3年度の主な実績について

新たな開発を目指した2つのプログラム「手形アート（幼児向け）」と「木箱づくり（小学校高学年向け）」については、育児サークルや小学校で試行し、改良を加えて効果的なプログラムとして確立できました。

木育拠点施設として整備を進めている森林学習展示館（県民の森）の木育ブースについては、西山杉で作製したボールプールやナラ、アカマツなど4種類の異なる樹種で作製した棚等を導入しました。アンケート調査の結果、利用者からも好評を得ており、機能強化が図られました。木育活動の普及については、むらやま木育のパンフレットやポスター等

を管内6箇所の子育て支援施設に置いていただくとともに、同施設での木育活動をサポートすることで施設との連携による更なるむらやま木育の普及が図られました。

◆令和4年度の計画について

令和4年度は、参加者から要望が多かった親子で取り組める木育プログラムを開発するとともに、市町や子育て支援施設との連携を密にし、県民の森木育ブースの情報発信の強化による集客やプログラムを実施できる施設の拡大を図っていきます。

また、木育インスタラクターの自立に向けた育成と技術の向上も合わせて行っていきます。



森林学習展示館木育ブース

ボールプール(西山杉)

◆おわりに

村山総合支庁では、これからも身近に木に触れる体験を通じて、木を使う事の大切さを伝えるため、むらやま木育の普及を進めていきます。

〔村山総合支庁森林整備課〕

制度の適正運用のために 村山 保安林制度に係るコンプライアンス研修会

◆はじめに

村山総合支庁管内では毎年、保安林内の作業許可申請が40件弱提出されています。そのうち森林施業に関連するものは約4割程度ですが、令和3年度は制度の主旨や事務手続きの理解不足を原因とした適正を欠く事案が2件発生しました。

このため、保安林制度及び保安林内の立木伐採や土地の形質変更を行う際に必要な許可申請について周知し、事務手続きの負担軽減や円滑かつ適正な制度の運用を図ることを目的として研修会を開催しました。

◆研修会の概要

研修会は令和4年3月2日にZoomを利用したWeb形式で開催し、村山総合支庁管内の市町・森林組合・林業関係団体・事業者等作業許可申請者から28名の参加がありました。

主旨説明に続き、①保安林制度の概要②保安林に関する諸手続きを説明した後、参加者との質疑応答を行い閉会しました。

◆おわりに

参加者の皆様からは、保安林内

の許可・届出を要する行為や、伐採届の具体的な記載方法などについて多くの質問をいただきました。

また、保安林の地番及び面積の確認方法について、普段の業務で生じた疑問も共有することができ、有意義な研修となりました。

今回の研修会を踏まえ、今後も適正な保安林制度の運用に努めてまいります。

〔村山総合支庁森林整備課〕

保安林とは

▶ 特に、**公益的機能を発揮するために指定され、伐採、作業道開設、開発転用などに規制が課される森林**

- ・ 森林の機能が、人間の生活の安全や快適な環境を提供
 - ・ 洪水や山地災害の防止（水源かん養、土砂流出防備、土砂崩壊防備、落石防止、なだれ防止、潮害防備、水害防備保安林）
 - ・ 水源の確保（水源かん養、干害防備保安林）
 - ・ 農業生産の保護、漁業資源の保護（防風、魚つき保安林）
 - ・ 交通の確保（防霧、防雪、航行目標保安林）
 - ・ 生活環境の保全（防風、潮害防備、飛砂防備保安林）
 - ・ 公衆の保健、名所旧跡の風致の維持（保健、風致保安林）

研修会資料より（抜粋）

令和3年度「木とのふれあいセミナー」開催

◆はじめに

最上地域の豊かな緑を守り育てる意識を醸成し、木とふれあう環境づくりを進めるため、やまがた緑環境税を活用し、森林資源の実態を学びながら木工品の製作体験等を通して「木とのふれあい」を促進するセミナーを開催しました。

◆セミナーの概要

令和4年3月6日(日)に新庄市最上広域交流センターゆめりあ2F会議室を会場として開催したところ、18名の参加がありました。

まず、第Ⅰ部「講演」では、広葉樹を暮らしに活かす山形の会共同代表の佐藤恒治氏から、「注目される広葉樹資源と利用の実態、そして可能性」と題し、県内の広葉樹資源の状況や利用の課題等についてお話しをいただきました。

次に、メインである第Ⅱ部「木工品の製作体験」では、地域の活動団体である「遊び工房プロジェクト」の樋口修氏と上野茉莉氏から、団体の活動紹介と木製作品の紹介、組み立て実演を披露いただきました。

続いて、広葉樹を暮らしに活かす

山形の会のメンバー、(有)ワンツの信夫正己氏、家具工房モクの渡邊英木氏、家具工房ALKUの本間正彦氏から、各社の木製品の特徴や体験活動を紹介いただき、その後、講師ごとに分かれ、参加者が広葉樹を活用した、箸、ペンダント、壁掛けづくり体験をしました。

参加者からは、「箸づくりは、木を小刀で削る作業が初めてで難しかった」、「自分が作ったものを身の回りに置いて活用したい」、「木にもいろいろな種類があることが分かった」などの声がありました。

◆おわりに

今回のセミナーにより、県内の豊富な広葉樹資源の活用等について理解を深めるとともに、製作体験を通して「木とのふれあい」を促進することができました。今後も、このような体験の場を通して、森林の重要性等の周知を図るとともに、木とふれあう環境づくりについて、取り組みを進めてまいります。

〔最上総合支庁森林整備課〕



土砂災害を防止・軽減する「治山施設」が必要です 森林を整備・利活用する「林道施設」が必要です

会長	新庄支部長	永井 敏行	永井建設(株)	理事	西村山支部長	佐藤 欣治	大東建設(株)
副会長	置賜支部長	那須 正	那須建設(株)	理事	北村山支部長	大山 圭介	大山建設(株)
副会長	庄内支部長	五十嵐久廣	鶴岡建設(株)	監事	東南村山支部	志田 賢一	(株)志田建設
理事	東南村山支部長	荒井 孝直	(株)山形組	監事	西村山支部	大泉 雅裕	(株)大泉組

山形県森林土木建設業協会 ◇事務所:山形市あさひ町16-21

TEL(023)632-3893 FAX(023)632-5454 E-mail: info@y-sinrin.jp

みんなの笑顔を一冊に込めて 〜会えなくてもできる!〜 緑の少年団交流研修会

◆情報交流冊子の試み

置賜林業推進協議会では、コロナ禍でも実施することのできた緑の少年団の活動を報告する、「令和3年度置賜地域緑の少年団情報交流冊子」を作成しました。

この試みは、コロナ禍により2年連続で開催できなかった置賜ブロック緑の少年団交流研修会の代わりに、「直接交流できなくても、活動を共有できる機会を作ろう」という考えから企画されたものです。

活動報告には、コロナ禍に負けない、各団員の元気な姿がありました。
◆活動報告の紹介

報告のあった活動の中から、特徴的な2つの事例を紹介します。

1 インパクトの強い活動

吉野緑の少年団（南陽市）からは、高性能林業機械の操縦体験という、報告がありました。見かけることすら少ない重機に触れる機会は、活動の回数が減った少年団員にとって、大きな思い出になったことでしょう。

2 ストーリー性のある活動

米沢市緑の少年団では、草木塔や木流しなどの「文化体験」、生活に活きる文化を「自分たちで考える学

び」、森への「感謝」というテーマを持って活動を行いました。団員自ら活動の意義を考える時間は、一つの活動に主体性をもたらし、1年を通して大きな物語として繋がる充実した学びになりました。

◆コロナ禍に、ポジティブな視点を
コロナ禍で「できない」尽くしの中でも、各少年団の活動には、必ず笑顔がありました。

各少年団の「できる」を集めたこの冊子を通して、令和4年度が未だ収束の見えないコロナ禍にあっても、子供たちの笑顔のような、めげない前向きな視点を共有できたらと思います。



〔置賜総合支庁森林整備課〕

アウトドア用品を「木製化」にチェンジ 〜やまがた森林ノミクス日用品木製化シフト事業〜

◆はじめに

県では、「令和3年度やまがた森林ノミクス日用品木製化シフト事業」において「食」をテーマとし、県産木材を利用した日用品の開発を支援しています。

置賜では、家具・什器を製造販売する米沢市の(有)ウッド・メーカーが、
①七輪付き折り畳みテーブル、②キャンプ用携帯まな板、③木製クーラーボックスを製作しました。

◆こだわりの木製品

この中でも近年のアウトドアブームを受け、今回企画・製作したのが木製クーラーボックスです。肉・野菜・飲料などを分けて入れられる三段重ね仕様で、各段の仕切りを格子状にして保冷力が保たれるようにしています。また、持ち運びがしやすいよう、持ち手のついた専用保冷バッグをつけた点も製作者のこだわりです。製作過程では、本事業のアドバイザーであるレストラン「アル・ケッチャーノ」の奥田政行オーナーシェフの助言により、サイズをひと回り小さくするなど、ユーザー目線

で改良を重ねました。

◆おわりに

3つの木製品のうち、テーブルとまな板は既に商品化されており、クーラーボックスは商品化に向け準備をしているところです。今後も日用品の木製化を進め、暮らしの中で木のぬくもりを感じてもらおうことで、木材利用の拡大に繋がるよう取り組んでまいります。

〔置賜総合支庁森林整備課〕



左上:①七輪付き折り畳みテーブル 左下:② キャンプ用携帯まな板
右 :③ 木製クーラーボックス

第60回全国林業経営推奨行事 庄内から2人同時受賞 本間文夫様、株式会社阿部製材所様おめでとうございます

◆はじめに

全国林業経営推奨行事とは、公益財団法人大日本山林会が主催して優れた森林の管理経営体を表彰するもので、今回で60回目を数え、当県では49人の方々が受賞しています。

今回は庄内管内からお二人が受賞されたので、御感想や今後の抱負等を語っていただきました。

◆本間文夫氏（林野庁長官賞）



じています。

この荣誉は私個人のものではなく、組合長を務めさせていただいた五十川生産森林組合や温海町森林組合の方々と力を合わせて行なった様々な取り組みの成果であると思います。

より多くの方々が先祖から受け継いだ山に興味を持ち、次代に引き継いで欲しいと願っています。私も日

課の山の手入れを今後も頑張っけていきたいと思っています。

◆株式会社阿部製材所 阿部知行社長

（大日本山林会会長賞）



評価されたものと感じ、大変感謝しております。

この喜びを社員一同と家族、貴重な山林を残してくれた祖先達と分かち合い、先達から受け継いだ事業を継続、発展させていく決意を新たにしています。

◆おわりに

今回の荣誉はご本人のみならず、関係者皆の励みとなり、地域林業の一層の発展に繋がっていくことと思

【庄内総合支庁森林整備課】

やまがた木育×庄内 体験会の開催について

◆はじめに

庄内地方林業振興協議会では、やまがた木育に関する研修や教材開発を進めています。

昨年度は、東北芸術工科大学の藤田教授から御指導いただき、教材のデザインやプログラムの作り方を学びました。

そして今年度は、教材としてあつみ杉のお弁当箱の試作と組立体験会を行いました。

◆体験会の概要

令和4年3月10日、眺海の森を会場に開催し、林業振興協議会会員のほか、眺海の森の案内人、指定管理者の（一社）庄内森林保全協会など多様な参加がありました。

講師には、教材の製作を委託した「酒田伝統工芸匠の会」から菊地秀雄会長と大谷光成氏を迎え、道具の使い方や手順、木材の話等、講師の丁寧な説明を聞きながら作業を行いました。初めての試みのため、少し時間は掛りましたが、お弁当箱とその端材を活用したお箸を完成させることができ、参加者からは「楽しか

った」「達成感があった」「作れると思わなかった」などの感想がありました。

そして体験後の意見交換では、組立のスピードが参加者で異なるため対象を誰にするのか、また参加者や講師の適切な人数、製作の説明書の内容について、参加者から意見が出され、プログラムとして活用するには、もう少し工夫や準備が必要であることが分かりました。

◆おわりに

この教材は、多くの課題もありますが、「自ら作り使う」「地域材の活用」「特殊な加工ではない」など優れた点もあることから、今回の結果を関係者と共有し、眺海の森の森林教室での活用などについて、更に検討を進めてまいります。

【庄内総合支庁森林整備課】



あつみ杉のお弁当箱

【はじめに】

森林研究研修センターでは、「やまがた森林ノミクス」を推進するため、各種研修を実施しています。令和4年度の研修計画について紹介します。

【主要研修の概要】

令和4年度は、これまで実施してきた研修に加え、ICT等を活用した新たな林業技術の習得や広葉樹資源の有効活用に重点を置くほか、県・市町村林務担当職員を対象とした技術向上・育成研修を数多く実施します。主な研修の概要は下表のとおりです。

それぞれの研修の日程等が決まり次第対象の方々にお知らせします。多くの方々の御参加をお待ちしています。「森林研究研修センター」



令和4年度林業技術者等
技術向上研修
(屋外研修:最適な採材方法について)

【令和4年度の主な研修の概要】

研修名	開催月 (予定)	場 所	対象者	内 容
森林作業道作設 技能者養成研修	6月 (4日間)	試験実習林 (西川町)	森林作業道作設 オペレーター (初級者)	・簡易で丈夫な森林作業道を作設できる技術者の養成
林業技術者技術 向上研修	7月 7月 2月	試験実習林 (西川町) 現 地	森林施業プラン ナー 林業経営体役職 員等	・ICT等情報化技術を用いた森林 作業システムの構築 ・森林作業道改修技術の習得 ・広葉樹資源の利用拡大
青年林業士 スキルアップ研修	7月	現 地 農林大学校	青年林業士	・カラマツの種子生産とコンテナ育 苗(予定) ・農林大学校学生との意見交換
指導林業士・ 指導林家等研修	8月 (2日間)	村山管内	指導林家 指導林業士・青 年林業士	・森林を活かした農山村の地域づくり ・現地研修(併催:東北・北海道林 業グループコンクール)
林業士養成研修	1月 (2日間)	研修館 (寒河江市)	青年林業士候補者	・山形県林業士(青年)認定を受け るための養成研修
	2月 (2日間)	研修館 (寒河江市)	青年林業士候補者	・山形県林業士(指導)認定を受け るための養成研修
森林技術職員等 基礎研修 (刈払機)	6月 (1日間)	研修館 (寒河江市)	市町村、県職員	・刈払機取扱作業員に対する安全衛 生教育
森林技術職員等 基礎研修 (チェーンソー)	10月 (3日間)	研修館 (寒河江市) 試験実習林 (西川町)	市町村、県職員	・チェーンソーによる伐木等の業務 に係る特別教育
森林技術職員等 基礎研修 (新任者)	5月~10月 (3日間)	研修館 (寒河江市)	市町村、県職員	・森林行政の推進に必要な基礎的知 識の習得 ・路網・造林・伐採の実務 ・ミニチュア採種園の造成・エリー トツリー造成(特定母樹)
森林技術職員等 技術研修	4月~11月 (6日間)	研修館 (寒河江市) 現 地	市町村、県職員	・特用林産・伐木技術・造林・森林 保護・森林利活用・林業経営



山形市コミュニティセンター

やまがたの木造施設 97

山形市西山形コミュニティセンター

山形市大字柏倉3776番地3

完成年度：令和2年度（令和3年3月）

延べ面積：900.07㎡

構造：木造平家建て（木造在来工法）

木材の（設計）数量：319m³（内市産材255m³）

特徴：「歴史と賑わい」を施設全体のコンセプトとし、地元の人たちの「ぜひ我々の親が植えて育てた板橋山の木を使ってほしい」という要望を受けて、可能な限り西山形の地元産材を使用し建てられました（全体の約80%）。使用された木材は、山形市大字門伝地内県民の森の板橋山の市有林から伐採されました。この市有林は市町村合併により市有林に編入されたもので、旧門伝地区の山でした。板橋山の木材は東京オリンピック選手村ビレッジプラザにも提供され、オリンピック終了後山形市に返された部材を使ってモニュメントが作られ、玄関前に設置してあります。建設費：約3億2,200万円



パスコは、森林・林業の課題を先端ICT技術で解決します！

<p>航空レーザ計測</p> <p>地形・樹高・樹冠を3次元計測し 計画立案、森林管理を支援</p>	<p>森林クラウドシステム</p> <p>簡単便利なサービス 効率的な情報共有を支援</p>	<p>森林資源解析（AI解析）</p> <p>樹種判別・森林資源量における 現地確認を省力化</p>
---	---	---

PASCO Surveying the Earth to Create the Future **株式会社パスコ 山形支店** 〒990-0039 山形県山形市香澄町一丁目19番5号
Tel : 023-624-7271 www.pasco.co.jp

森林とのかけ橋をめざす 総合アドバイザー

（一財）日本森林林業振興会 秋田支部
Japan Forest Foundation AKITA

企業活動を展開しつつ、国から承認された国民参加の森林づくり等活動を支援する法人です

秋田支部	支部長	木村大助	〒010-0001 秋田市中通5-9-49 TEL 018(832)4040 Fax 018(835)6837
山形出張所	所長	佐藤宏一	〒990-2473 山形市松栄1-5-41 TEL 023(647)8450 Fax 023(674)0109



〔山形県森林協会〕

この原木は「庄内柿の原木」として、昭和49年5月31日に鶴岡市の天然記念物に指定されました。

酒井調良はアルコールによる渋抜き法を考案するなど庄内柿のブランド化に大きな役割を果たして庄内柿の父と呼ばれています。

庄内柿は柿の品種としては平核無ひらななむと呼ばれ、渋柿の優秀な品種として広く栽培されています。平核無のルーツがどこか本家争いがおこり、昭和6年に新潟市秋葉区（旧新津市）で推定樹齢300年の古木が見つかり、接ぎ木の跡がない実生樹であることから平核無の原木とされ、新潟県の天然記念物に指定されました。この原木は八珍柿と呼ばれて現存しています。

庄内柿のルーツについては諸説ありますが、明治20年頃に新潟県から導入され、庄内藩の家老の次男で、庄内での果樹栽培や農業経営に尽力していた酒井調良により、広く庄内で栽培されるようになりました。



(案内略図)



“美しい森林の風景を守るために” 森林経営管理をサポートします

- 市町村の森林・林業行政の体制支援
- 資源量調査
- 森林 GIS 等、システム整備
- 森林経営計画作成促進の支援
- 路網整備の助言・指導
- 関係団体とのマッチング
- 森林境界の明確化
- 森林情報の収集及び整備
- 森林サイクルのマネジメント



一般社団法人 **山形森林調査協会**

〒991-0003 山形県寒河江市大字西根字長面153番地の1
TEL.0237-85-8233 FAX.0237-85-8233
E-mail : yfi@kfa.biglobe.ne.jp

受講生募集中

木材加工用機械作業主任者技能講習会を開催します!

製材工場(丸のこ盤、帯のこ盤、かな盤等5台以上設置。帯のこ盤に自動送材車付き帯のこが含まれる場合は3台以上対象)は「木材加工用機械作業主任者」の配置が義務づけられています。欠員など主任者のいない事業所は受講してください。

受講要件:木材加工用機械による木材加工作業に3年以上従事した経験を有するもの。

開催日時:令和4年7月7日(木)・8日(金) 8:30~17:30

場所:山形県森林研究研修センター 研修館(寒河江市大字寒河江丙2707)

お問い合わせ(申込先)〒990-2473 山形市松栄1-5-41

林業・木材製造業労働災害防止協会山形県支部

TEL:023-666-4810 FAX:023-666-4811



人事異動

令和4年4月1日付けで次のとおり発令になりました。

【森林ノミクス推進課】

▽森林ノミクス推進課長 福井克▽
森林活用推進主幹 小畑義一▽森林
経営・再造林推進主幹 笠井俊哉▽
課長補佐(総括) 原田彰弘▽課長
補佐(森林利用・林工連携担当)(兼)
産業技術イノベーション課林工連携
推進専門員 吉田正樹▽課長補佐
(林産振興担当) 山崎優▽林産振興
主査 澤口宜将▽森林整備主査 深
瀬雅和▽森林保全主査 内田順也▽
林道整備主査 志斎和貴▽主査(予
算担当) 工藤裕子▽主査(森林利
用・林工連携担当) 山川里佳▽主
査(森林経営管理担当) 相原亮太郎
▽主査(森林整備・再造林推進担当)
浦田香織▽技師(林産振興担当)
藤田麻矢▽技師(森林整備・再造林
推進担当) 伊藤翔▽主事(森林保
全担当) 佐藤伶▽技師(森林保全
担当) 幸田光

【農林大学校】

▽教授(林業経営学科) 倉本幸輝
▽主任指導員(林業経営学科)(兼)
主任指導員 須藤泰典▽主任指導員
(林業経営学科)(兼) 主任指導員
古崎明

【森林研究研修センター】

▽森林研究研修センター所長 梅津
一寿▽副所長(兼) 総務課長 野川
木綿子▽研究主幹 伊藤聡▽林産・
林業経営主幹 森川東太▽研究企画
部長(兼) 農業技術環境課温暖化技
術専門員 渡部公一▽森林資源利用
部長 中村人史▽森林経営指導部長
後藤伸幸▽主任専門研究員(兼) 主
任専門研究員 古澤優佳▽主任主査
大場伸二▽専門研究員 渡邊潔▽主
査(森林経営指導部)(兼) 主査
仁藤敬喜▽研究員 村川直美子▽研
究員 青木聡樹

【専門職大学整備推進課】

▽課長補佐(森林業学科担当) 坂
本幸雄

【村山総合支庁森林整備課】

▽森林整備課長 土屋隆一▽森づく
り推進室長 片桐政和▽課長補佐
(林政企画担当) 丹野真人▽課長補
佐(普及担当) 工藤吉太郎▽課長
補佐(治山林道担当) 細谷一彦▽
森づくり推進室室長補佐(森づく
り担当) 今田洋一▽森づくり推進室
室長補佐(里山造林担当) 齋藤浩
▽西山杉ブランド化主査 齋藤和恵
▽森づくり推進室造林主査 矢萩洋
平▽主査(林政企画担当) 佐藤日
和▽専門林業普及指導員(普及担
当) 高野雄太▽主査(治山林道担
当)

当) 若木央▽森づくり推進室主任
主査(森づくり担当) 土方孝宮▽
技師(治山林道担当) 成澤慎太郎

【最上総合支庁森林整備課】

▽森林整備課長(兼) 林業・木材産
業振興室長 菅原隆志▽森づく
り推進室長 井上一彦▽課長補佐(林政
企画担当)(兼) 林業・木材産業振
興室室長補佐(木材流通対策担当)
鈴木雄大▽課長補佐(治山林道担
当) 海鉾清▽森林管理主査 間宮
敦▽治山林道主査 下山俊治▽森づく
り推進室造林主査 齋藤朱美▽林
業・木材産業振興室専門林業普及指
導員(普及担当) 荒澤祐樹▽主査
(木材流通対策担当) 黒沼一徳▽技
師(治山林道担当) 鈴木隆俊

【置賜総合支庁森林整備課】

▽森林整備課長 大築和彦▽森づく
り推進室長 柴田泉▽課長補佐(林
政企画担当) 森谷浩▽課長補佐(治
山林道担当) 鈴木俊行▽林政主査
横倉齊▽主査(治山林道担当) 新野
雄大▽主任林業普及指導員(普及担
当) 高橋文▽技師(治山林道担当)
小野美乃里▽主任技師(森づく担
当) 野村征宏▽技師(里山造林担
当) 横須賀龍彦

【庄内総合支庁森林整備課】

▽森づくり推進室長 井上勝幸▽森

づくり推進室室長補佐(森づく担
当) 尾形俊成▽林政主査 浅野浩
▽主任専門林業普及指導員 横山一
徳▽森づくり推進室森づくり主査
遠藤忍▽主任主査(治山林道担当)
後藤徹▽森づくり推進室主任主査
(里山造林担当) 木村義昭▽主査
(里山造林担当) 松木利夫▽主任林
業普及指導員(普及担当) 瀧澤逸
▽技師(治山林道担当) 岸真浩▽
技師(治山林道担当) 星川智希▽
技師(里山造林担当) 後藤春樹

【環境エネルギー部みどり自然課】

▽課長補佐(みどり県民活動推進担
当) 伊藤志津▽みどり県民活動推
進専門員 大宮由起子▽自然環境主
査 佐藤瑞穂▽技師(みどり県民活
動推進担当) 加藤駿

【環境科学センター】

▽主任専門研究員 柳田博郎

【工業技術センター庄内試験場】

▽専門研究員 荘司和也

●退職者

▽農林水産部参事(兼) 森林ノミク
ス推進課長 齋藤潔▽森林研究研修
センター所長 堀米英明▽村山総合
支庁森林整備課長 石川浩▽森林研
究研修センター 技師 田中元久

森林やまがた 一九九号

令和四年四月二十日発行(隔月発行)
編集・発行 山形市松栄一丁目五番四一号 山形県森林協会

監修 山形県農林水産部
印刷所 渡辺印刷

定価 二八八円